

みんなあでつながる!ひろげる!地域のチカラ

プラットふくし

こ う ち

高知県社会福祉協議会広報誌

知っちゅう? 民生委員のこと 児童委員のこと

深掘り対談

民生委員・
児童委員って
なんですか?

成谷佐智さん × 山崎勇人さん

What's?

民生委員&児童委員



2025
4月号

vol.12

contents

特集「知っちゅう? 民生委員のこと 児童委員のこと」—— 2

ボランティア・NPO 情報 てをつなGO! ————— 6

こうち NPO フェス 2024 開催報告!

シニアのちょっといい話 ————— 8

室戸えがお食堂 | 二区ミニディ

プラットこうち人 川村 空さん ————— 10

高知県社協からのお知らせ ————— 11

市町村社会福祉協議会ご紹介「いの町社会福祉協議会」—— 12

ンし、比島交通公園に就職したことがきっかけでした。園長になったことで地域の活動に誘われるようになり、当時の民児協（※1）会長に誘われて福祉委員となり、前任の主任児童委員の退任（※2）をきっかけに29歳で主任児童委員になりました。江ノ口東地区には2名の主任児童委員がおり、1人は子育てを終えたベテランの主任児童委員、もう1人がわたしで助け合って活動しています。



成谷 婦人会やヘルスマイト（食生活改善推進員）、福祉委員等の活動をしていたことで区長から声をかけられ、49歳で民生委員・児童委員になりました。当時は活動内容や役割も良く知りませんでしたが、地域で色々な活動していたので声をかけてもらったのだと思います。西泊地区では初めての女性委員で、当時は「周りには男性ばかりなのに、わたしがやるの?」と驚きました。

山崎 高校卒業後県外で働いた後にUター

民生委員・児童委員になったきっかけは何ですか?

深掘り対談

民生委員・児童委員ってなんですか?

ふだんはどのような活動をしていますか?

成谷 日々の声かけや見守りはもちろん、女性部の活動として、週に1回の配食サービス、夏休み期間中の子ども食堂などに取り組んでいます。コロナ前は月に1回の昼食バイキングもやっていて、地域のみなさんに好評でした。

また、委員同士の交流として、数年に一度、宿泊研修も行っています。泊まって一緒にお酒を飲めば、強い絆が生まれます。自分たちの心が癒されていないと人のお世話はできない!ということで、自分たちが楽しむことも大切にしています。

山崎 主にイベントの企画運営に取り組んでいます。秋に開催したハロウィンのイベントにはたくさんの親子が参加してくれて、楽しそうな様子にこちらも嬉しくなりました。

日常的には、様子の気になる児童を見かけた際に学校の先生と連絡を取り合うなど、見守り活動を行っています。



保育所訪問の様子（成谷さん）

知っちゅう?



民生委員のここと児童委員のここと

「民生委員・児童委員」という名前は聞いたことがあるけど、いったいどんなことをしているの? どんな人がやっているの?

民生委員・児童委員は、

地域の縁の下での力持ちとして日々活躍しています。

今回の「プラットふくし」では、

高知県内最年長（89歳・民生委員歴39年）の成谷佐智さんと高知市最年少（34歳・児童委員歴5年）の山崎勇人さんのお二人に民生委員・児童委員の活動のこことをお聞きしました!



大切にしていることを教えてください

委員活動のやりがい、

3



成谷 次の世代にバトンタッチしていくこと。民生委員をサポートしてくれていた社協の元職員さんが民生委員・児童委員になってくれているのもうれしいです。

山崎 民生委員・児童委員について、もっと多くの人に知ってもらいたいと思います。そして、自分たちの暮らす町についても、もっと知ってほしいです。子どもも大人も、地域を知れば、もっと地域が好きになるし、地域の大人に大切にされた子どもは、いずれ自分が大人になったときにも地域の子どもの大切にしてくれると思います。

(※1) 民生委員児童委員協議会: すべての民生委員・児童委員は、市町村の一定区域ごとに設置される「民生委員児童委員協議会」に所属しています。市町村・県・全国にも民児協が設置され、研修会や広報等、広域での活動を展開しています。
(※2) 民生委員・児童委員は「民生委員法」「児童福祉法」に定められ、3年に1回の改選があります。次回の改選は令和7年12月1日です。

5

委員活動をふり返って

山崎 勇人 さん

高知市江ノ口東地区
民生委員児童委員協議会
主任児童委員



山崎 委員になったばかりの時はコロナ禍真っ只中で、せっかく企画したイベントも中止や縮小しての開催が続いていました。できるか分からないものに向かって一生懸命準備を進めていくのは大変でしたが、活動が続けることで色々な人とつながることができ、今はやりがいを感じながら様々な取り組みができています。

大先輩の成谷さんがこんなに頑張っておられる姿を見ると、自分もまだまだこれからだなという気持ちになりますね。

成谷 民生委員の活動内容もあり方も地域によって全く違います。きっと高知市などの市街地は人口も多くて大変でしょう。民生委員はあくまでパイプ役。何もかも自分で解決しようと抱え込むのは良くないし、実際一人では何もできません。大変な思いをするときもありましたが、みんなで一緒に向き合い、考えることが大切だと思います。

これから
やっていきたいこと

4

What's?

民生委員&児童委員

民生委員・児童委員は
地域の身近な
相談相手です



●民生委員・児童委員は「誰もが安心して暮らすことができる地域づくり」のために活動するボランティアで、厚生労働大臣から委嘱をされて活動しています。

●生活上の心配ごとや困りごと、子育てや介護などの相談にのり、必要な支援・サービス・関係機関へのつなぎ役となります。また、地域の集いの場や子育てサロン等の開催、高齢者・障害者・子育て世帯への訪問、防災訓練等様々な活動を実施・協力しています。

●令和9年には民生委員制度が始まってから110周年を迎えます。現在は全国で23万人、高知県ではおよそ2,300人の委員が活動しています。

民生委員・
児童委員の
7つの仕事



①**社会調査** 担当区域内の住民の実態や福祉ニーズを日常的に把握します。

②**相談** 地域住民が抱える課題について、相手の立場に立ち、親身になって相談にのります。

③**情報提供** 社会福祉の制度やサービスについて、その内容や情報を住民に的確に提供します。

④**連絡通報** 住民がそれぞれのニーズに応じた福祉サービスを得られるよう、関係行政機関、施設、団体等に連絡し、必要な対応を促すパイプの役割を果たします。

⑤**調整** 住民の福祉ニーズに対応し、適切なサービスの提供が得られるように支援します。

⑥**生活支援** 住民が求める生活支援活動を自ら行い、また支援体制をつくっていきます。

⑦**意見具申** 活動を通じて得た問題点や改善策について取りまとめ、必要に応じて民児協を通して関係機関等に意見を提起します。

このような活動をきっかけに「生活福祉資金」や「共同募金」運動の制度化が進みました！

制度創設から
まもなく
110年を迎えます



●民生委員制度は、1917(大正6)年に岡山県で創設された「済世顧問制度」を起源とします。その翌年には大阪府で「方面委員制度」が発足し、1928(昭和3)年には方面委員制度が全国に普及しました。

●当時の時代背景として、1914(大正3)年に第一次世界大戦が勃発し、富国強兵や殖産興業政策の推進によって、国民生活が不安定となり、生活困窮者が増加し、多くの人が劣悪な環境で厳しい生活を強いられていました。

●制度創設当初は「防貧活動」が中心でしたが、現在は地域のまちづくりや、子どもから高齢者まであらゆる世代の相談にのり、関係機関やサービスとの橋渡し役として活動しています。

●その後、1947(昭和22)年に児童委員制度が誕生しました。児童保護等実績がある民生委員が児童委員を兼任することとなりました。

民生委員・児童委員の
基本的なルール



民生委員・児童委員には、以下の3つの基本的性格があります。

- ①**自主性** 常に住民の立場に立ち、地域のボランティアとして自発的・主体的な活動を行ないます。
- ②**奉仕性** 誠意をもち、地域住民との連帯感をもって、謙虚に、無報酬で活動を行なうとともに、関係行政機関の業務に協力します。
- ③**地域性** 一定の地域社会(担当区域)を基盤として、適切な活動を行ないます。

●民生委員・児童委員は、以下の活動の原則に基づいて活動しています。

- ①**住民性** 自らも地域住民の一員として、住民に最も身近なところで、住民の立場に立った活動を行ないます。
- ②**継続性** 福祉課題の解決は時間をかけて行なうことが必要です。地域を担当する民生委員・児童委員の交代があった場合でも、前任者の活動は必ず引き継がれ、継続した対応を行ないます。
- ③**包括・総合性** 個々の生活課題の解決を図ったり、地域社会全体の課題に対応していくために、その課題について、包括的、総合的な視点に立った活動を行ないます。

民生委員・児童委員活動は、地域によって異なります。
より具体的な活動については、各市町村の福祉担当課や民生委員児童委員協議会にお問合せください。

こうちNPO フェス2024 開催報告!



Différent

《Différent》は、高知国際高校の生徒を中心とした防災に取り組む団体です。フェスでは、被災時のトイレ問題をテーマに、凝固剤・ペットシート・新聞紙・猫砂で水の固まるスピードの変化を比較し、凝固剤の重要性を認識する「トイレ実験」のほか、被災時に水を無駄にしない調理法「バッククッキング」のパネル展示を行いました。参加者には実際に体験してもらうことで興味を持っていただけました。自分たちの活動をさらに広め、防災について多くの人に知ってもらいたいと実感しました。

https://www.instagram.com/different_kokusai/



NPO 法人 NPO 砂浜美術館

《NPO 砂浜美術館》は、黒潮町を中心に地域資源を生かしたイベントの開催や体験プログラムの開発などを行っている団体で、毎年ゴールデンウィークに「Tシャツアート展」を行っています。フェスでは、イベントで使われるTシャツやエコバッグ、手ぬぐいなどに「すなびスタンプ」で装飾を行うワークショップと、手ぬぐいやマスキングテープ、はがきなどのオリジナルグッズの販売を行いました。フェスを通じて、団体のことを知っている方も初めて知る方にも大いに魅力を発信できました。

<https://sunabi.com/>



高知ボッチャクラブ

《高知ボッチャクラブ》は年齢、性別、障害のあるなしに関わらず、すべての人が一緒に競い合えるスポーツの普及のために活動しており、定期的に行われる大会に向け、月に1度、高知県立障害者スポーツセンター体育館などでも練習を行っています。今回はそのボッチャの競技体験ができるブースを準備し、ルールや投球方法の説明後、参加者同士

で試合を行いました。参加者からは、「こんなスポーツがあるとは知らなかった」や「奥深いスポーツなのでまたやりたい」などの声をいただき、大変良かったです。



きみのたねこうぼう

《きみのたねこうぼう》は、家でも学校でもない第3の居場所づくりを目標に、子どもたちの“好き”を見つけ“やりたい”を伸ばすためのイベントやワークショップを行っている高校生団体です。

フェスでは、チラシや名刺を配布しながら活動内容の紹介を行いました。また、活動体験として、世界に1つだけのスライムづくりや、水と油が混ざらない性質を利用したオーシャンボトルづくりを行えるブースを設置し、子どもから大人まで多くの参加者が無料で気軽に体験できるようにしました。活動に興味を持ってブースに立ち寄ってくださった大学生も複数人おり、今後の活動の大きな励みとなりました。

https://www.instagram.com/kimi_tane_kochi/



高知商業高等学校 ジビエ商品開発・ 販売促進部



高知県の野生鳥獣被害を深刻な地域課題と捉え、ジビエとして活用するための商品化を行い、得られた利益で高知の森林保護活動を支援している循環型社会貢献活動について伝えるポスターセッションを行いました。また、本来廃棄される部位やヒューマンフードとして提供できないものをペットフードとして開発した商品を販売しました。ジビエ部の活動に感銘を受ける方もおり、若い方から年配の方まで幅広い方にご購入いただきました。

https://www.instagram.com/shisho_gibier/

NPO 法人 日高わのわ会



《日高わのわ会》では、地元の特産品「日高村フルーツマト」を使った商品の製造・加工・販売を行っています。フェスでは、廃棄予定だったトマトから作ったソースを使用した【とまとうどん】の販売と、トマトソースの販売を行いました。たくさんの参加者に購入いただき、商品を知ってもらう良い機会となりました。

<https://wanowa-hidaka.com/>

こうちあそびマルシェ

《こうちあそびマルシェ》は、おもちゃや遊びを通じた子育て・地域交流の場である「おもちゃの広場」を開催している保育士さんが運営する団体です。フェスでも「おもちゃの広場」を開催し、全国のおもちゃコンサルタントの推薦・投票によって選ばれた木製品中心のおもちゃや、スキルトイと言われるけん玉やこま、ボードゲームなどを準備し、来場者に遊んでもらいました。親子の参加が多く、スタッフやボランティアと共におもちゃ遊びを楽しんでいました。

https://www.instagram.com/kochi_asobi_marche/



山田高校地域みらい部



《山田高校地域みらい部》では、部活動として地域貢献のための商品開発を行ったり、小学生に宿題を教える出張型塾を開催するほか、様々なイベントに出店しています。今回は、香美市の神池地区のみで作られていた幻の芋を使って開発した「神池芋ブゼン」を販売しました。売れ行きは好評で、あっという間に売り切れてしまい、若い層の方からも甘くておいしいという声が聞かれました。

<https://www.kochinet.ed.jp/yamada-h/index.html>

NPO 法人 蛸蔵

《NPO 蛸蔵》は美術、音楽、演劇、映画の4ジャンルを中心としたその制作並びに発表の場である「蛸蔵」と、様々なものとアートをつなぐ「薬工ミュージアム」を運営している団体です。フェスでは施設と活動の紹介パネル展示や、薬工ミュージアム内にある「わらこう Sou Sou 室」の出張ワークショップ「展覧会をつくってみよう!ミニミニ体験」を開催しました。このワークショップは、薬工ミュージアムで開催した展覧会で紹介したミュージシャン・ハナカタマサキ氏の作品を使用し、展示プランを考えてもらうというものです。展覧会を作るという想像をしたことがなかった方が多く、新鮮な気持ちで楽しんでいただけました。

<https://www.tacogura.com/>



NPO 法人 福祉住環境 ネットワークこうち

《福祉住環境ネットワークこうち》では、「障害を持って、高齢になっても、誰もが自分らしく、安心して暮らせる高知のまちの実現」を活動目的としている団体です。フェスでは、団体の活動について写真や新聞記事を交えて紹介を行いました。その他、けん引式車椅子補助装置【JINRIKI】の展示や体験コーナーを設け、実際に見て触ってもらいながら、活動について知らなかった方々とも交流を行うことができました。

<https://fukuneko-k.com/>





室戸えがお食堂

室戸市

世代を超えた集いの場

コロナ禍を乗り越え活動を本格化

「いつも頑張っているお母さんの手助けをしたい」「県内各地にできた〈こども食堂〉を室戸でもやりたい!」という想いから、2018年11月に発足した『室戸えがお食堂』。

5人の実行委員と10人ほどのボランティアメンバーで活動しており、室戸市保健福祉センターで月に1度食堂を開いている。

発足後まもなく拡大したコロナ禍により活動は低迷。一度活動をやめてしまうと再開は難しくなると考え、弁当形式や少数での会食形式を取るなど細々ながら活動を継続。本来の食堂形式を再開したのは2024年4月のことだ。

世代間交流の場に

ボランティアメンバーには、子どもたちや市内の小学校で読み聞かせや折り紙教室などの活動をしている「室小おはなし会」の会員がいる。

食堂の開催日には、地域の子供たちから高齢者まで幅広い世代が35人ほど集まり、皆で食卓を囲みながら食事を楽しむ。食事前には高齢者と子どもたちがオセロやボールで一緒に遊んだり、折り紙をして楽しむ姿も見られ、多世代間交流の場ともなっているようだ。訪問した日は、実行委員と子どもも含めたボランティアメンバーのみんなで料理をつくっていた。

食堂を利用しているお母さんに聞くと、「昼食をゆっくりと食べられて、すごく助かります。子どもたちも友達と遊ぶことができて毎回楽しみにしています」とのこと。子どもたちからも「みんなと遊べて楽しい!ご飯もおいしいです!」とのこと。

代表の多田さんは、笑顔を絶やさず語る。「誰がどの場面にいてもいいんです。料理をしにきてくれてもいいし、ただ遊びにくるだけでも、食べにくるだけでもいい。参加する人たちがみんなが、居心地が良いと思ってくれたらそれで良いんです」。

集いの場が増え、拡がる活動

最近、室戸えがお食堂から派生して『むろと☆あそびバノ』という活動もはじまり、地域住民が集まり、一緒にものづくりやお菓子づくりなどを楽しむ場になっている。

メンバーのモチベーションは、「おいしかった」「ありがとう」という声だといい、今後もできる限り食堂を続け、若い世代にも活動を引き継いでいきたいという。



大人から子どもまで、一緒になって調理や遊びを楽しむ



シニア世代の皆さんが生きがいのあるセカンドライフを送るための参考となるような、県内でいきいきと地域活動をされている皆さんをご紹介します。

二区ミニデイ

本山市

百歳体操で体もこころも軽く

週2回の百歳体操と季節の催し

『二区ミニデイ』は、本山市の市街地にある二区地区を拠点に、2017年4月に活動を開始した。活動がはじまったきっかけは、他地区でも行われていた『百歳体操』を二区地区でもやってみようという区長の提案だ。

メンバーは60代から90代までの女性ばかり11名で、地区にあるコミュニティセンターで週に2日体操を行っており、そのほか町内の保育園児との交流を年1回、ボランティアによる月1回の紙芝居、季節の催しを年数回行っている。

体操は、映像を見ながら掛け声に合わせて、「1、2、3、4、5、6、7、8」と声をあげながら体を動かす。参加者の方に聞くと、「体操の後は体が軽くなって、健康維持にもつ



百歳体操の様子

ながる」そう。地区は坂道も多く、コミュニティセンターまでの道のりが、足腰を鍛える良い機会にもなっているとも。

季節ごとの催しを、2月は節分、3月はひな祭り、7月は七夕などに行うようにしていて、メンバーのみんなで知恵を出し合ってレクリエーションを行ったり、食事を一緒に食べたりしているという。百歳体操だけでなく、季節ごとの催しがあるからこそ、より地区内のつながりが強くなっている。

会話を楽しみ、お互いを見守る

『二区ミニデイ』の活動は、定期的に皆と顔を合わせる良い機会になっており、お互いの見守り活動にもつながっているという。メンバーは独居高齢者も多く、自宅にいただけだと人と会話をする機会も少ないが、「活動に出てきたらみんなの顔も見ることができると、話もできるので楽しい」とのこと。休んでいるメンバーがいれば「体調は大丈夫かな?」と気にかけてあう関係性もできており、「メンバーと会えることや会話ができること」は活動継続のための大きな原動力となっているそうだ。

お世話役のひとりを務める上地さんは、今後も皆に楽しんでもらうために、様々な活動を継続しながら健康維持を促進していきたいと、笑顔で話してくれた。

フラット
こうちん

VOL.12

病気を乗り越え、福祉の世界へ
高知県立大学社会福祉学部 4 回生
川村 空さん (21)

中学3年生で脳出血を発症した、川村空さん。右半身麻痺などの障害が残るも、現在は病気を乗り越え、高知県立大学で社会福祉について学んでいる。

病気を乗り越えて

中学3年生の冬、脳出血を発症。命をとりとめたが、右半身麻痺の障害が残った。当初は「いつかはもとに戻るだろう」と考えていたが、治療の中でもとは戻らないとわかり「小さい頃から習っていたダンスができなくなる」と悔しさを感じたという。

その後、約6ヵ月間のリハビリ期間を経て退院。比較的早く歩けるようになったのは、家族や病院の看護師など、まわりから「空ちゃんならできる」と励ましてもらい支えてもらいながらリハビリに取り組めたからだという。

しかし、その後体調が悪化し入院を繰り返すことになる。ちょうどコロナの時期だったため、面会もできず精神的にもつらい期間だったが、同時期に白血病を乗り越え活躍する競泳の池江里佳子選手の姿に励まされたという。高校卒業の頃には日常の生活ができるまでに回復した。

卒業後の進路は、自身の経験から医療職に興味があったが、手先を使うことも多く断念。担当の先生と自分にあった進路を考える中で見つけた「福祉」分野を学ぶべく、高知県立大学社会福祉学部への入学を決めた。

大学での活躍

大学では、中山間地域で農作業の手伝いを行うボランティア「アサークル」[かんきもん援農部門]に所属している。最初は障害があっても活動できるのか不安があったが、先輩に相談してみたところ「やってみたら?」と背中を押してもらい、入部を決めた。2回生の時には代表も務め、大学祭では援農部門として初めて出店。活動先で採れた作物で作った栗おにぎりを販売した。人手が足らず苦労したが、無事に販売もでき、売れ行きは大好評だったという。この大学祭の出店は、今までの大学生活の中で「一番印象に残っているそう」だ。

市民ミュージカルへの参加

小学3年生の時「高知市民ミュージカル」に、小さな頃から通っていたダンス教室の縁もあり小学三年生以上という年齢制限の中で最年少として出演した。

そして2023年、市民ミュージカルが障害の有無や社会的立場などの枠を取り払い、11年ぶりに復活し、出演者の公募がスタート。もともと人前に出ることが好きで参加することを考えるが、障害もありダンスなど動きのあるものではないのではと参加を躊躇していたという。

しかし、旧知のダンスや演劇の先生方が指導につくという安心感に後押しされ、参加を決意。「障害がある人でもミュージカルで活躍できるんだ」という思いで出演し、とても楽しい時間だったという。

今後の目標

サークル活動や市民ミュージカルへの参加など、積極的に挑戦していく川村さんの原動力は何かと尋ねると、「小さな頃からキャンプなどのイベントに参加していたことで、初めて会う人たちとも交流する力がつき、新たな人と関わったり、人前に出て楽しんでもらうことが好きになった」と話してくれた。小さい頃から様々な挑戦を重ねてきた経験が、川村さんの積極的に挑戦をする原動力となっている。

将来については、まだ迷っているが、自身のこれまでの経験を

もとに選んでいきたいとのこと。これまでは「配慮される側」として過ごしてきたが、大学での学びを通して、自分にもできることがたくさんあることを実感したという。また、自身のリハビリ期間中に看護師や周囲の人から励ましてもらい、支えてもらった経験が強く心に残っており、今度は自分が人を励まし、支える立場になりたいと思っているという。

今後は卒業に向け、就活や勉強、卒業論文など忙しい生活が控えているが、「楽しむココロ」を忘れず、日々を楽しんで過ごしたいと話す。病気を乗り越え、何事にも積極的に挑戦していく彼女なら、今後どんな障壁でも乗り越えていくことだろう。

高知県社協からのお知らせ

第27回 高知県障害者スポーツ大会の開催!

障害のある方のスポーツを通じた体力の維持増進及び自立と社会参加の促進に寄与するとともに、県民の障害者に対する理解を深めることを目指します。

[問合先]

高知県立障害者スポーツセンター

TEL:088-841-0021

https://www.kochi-scfcd.com/

ナツボラ
(夏のボランティア体験キャンペーン)
2025 受入登録団体募集!

「ナツボラ」を今年も開催します!実施にあたり、「ナツボラガイド」に掲載するボランティアの受入団体とプログラムを募集します。

(※事前登録が必要です)

詳しくは、下記までお問い合わせください。

[募集期間]令和7年4月1日(火)~5月16日(金) ※必着

[問合先]ボランティア・NPOセンター

TEL:088-850-9100

MAIL:kvnc@pippikochi.or.jp

キッズ☆バリアフリー
フェスティバル2025開催!

子どもやその家族がイベントを通して様々な人や専門機関と繋がり、ライフステージに応じた知識や制度、福祉用具の情報を得ることで、自らの可能性を伸ばすきっかけづくりを目的に開催します!

[開催日]令和7年7月12日(土)13:00-17:00、

7月13日(日)9:30-15:30 ※一部セミナーは17:00まで

[場所]ふくし交流プラザ 朝倉戊375-1

[問合先]いきいきライフ推進課

TEL:088-844-9271(直通)

高知県社協 キッズ

検索

令和7年度
社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険

検索

老人福祉施設、
障害者支援施設、
児童福祉施設などにスケールメリットを活かした割安な保険料で
充実補償をご提供します!◆加入対象は、社協の会員である
社会福祉法人等が運営する社会
福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険等)

▶ 保険金額		基本補償(A型)		見舞費用付補償(B型)	
賠償事故	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円		2億円・10億円	
	財物賠償(1事故)	2,000万円		2,000万円	
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円		200万円	
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円		20万円	
	人格権侵害(期間中)	1,000万円		1,000万円	
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円		1,000万円	
お見舞い等	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円		2,000万円	
	事故対応特別費用(期間中)	500万円		500万円	
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度		1事故10万円限度	
傷害見舞費用				死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円	

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用責任賠償責任保険、役員賠償責任保険、サイバー保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL:03(3349)5137

受付時間:平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

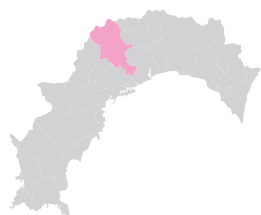
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL:03(3581)4667

受付時間:平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)



法人連携でつむぐ いの町つながる クリスマスマルシェ開催



高知県内の
社会福祉協議会ご紹介①
いの町社会福祉協議会

いの町すこやかセンターにて、今回で2回目を迎える「クリスマスマルシェ」が開催されました。このマルシェは、令和元年に5つの社会福祉法人が連携して発足した「いの町社会福祉法人つながる会」の実行委員会を中心に、マルシェを通じて福祉の取組や活動について広く知ってもらい、理解を深めてもらいたいという思いのもと話し合いを重ね、準備を進めてきました。

当日は、農福連携をテーマにした昨年度よりも150人多い450の方が来場し、大盛況。さらにパワーアップした今回、社会福祉法人ブースでは各法人の利用者が手作りの品物の展示や販売が行われ、クイズ大会やバザーも開催されました。各法人から品物を集めたバザーは特に大人気で、売り上げは生活に困っている方の支援に充てられることになりました。また、普段は利用者として社協とつながっている方たちが、当日はボランティアとして積極的に参加する姿がとても印象的でした。

いの町社会福祉協議会の下川局長と伊吹さんは、今後の展望について、「社会福祉法人のつながり力を活かして地域住民のみなさんに広く福祉に興味を持ってもらい、次に開催するボランティアフェスティバルにつなげていきたい」と話します。今回のマルシェから広がっていく地域福祉の今後の展開が楽しみです。



つながる会の5法人の利用者の作品を展示

社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

高知市朝倉戊375-1 県立ふくし交流プラザ内
TEL.088-844-9007 / FAX.088-844-3852
E-mail plaza@pippikochi.or.jp

<https://www.kochiken-shakyo.or.jp/>

ふくし交流プラザへの交通のご案内

[お車でお越しの方] 高知駅より車で約20分、高知 IC より車で約30分、
伊野 IC より車で約15分、高知龍馬空港より車で約50分。
駐車場：普通乗用車で約180台駐車できます
[公共交通機関でお越しの方] 最寄りバス停「朝倉第二小学校前」下車すぐ

